

切望

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダの選んだ美德 バースデー・ブリスに寄せて

シッダ・ヨーガ 瞑想ティーチャー マイトレーヤ・ラリオスによる解説

グルマーイが私たちに培うよう勧めている神聖な美德の素晴らしいことの
一つは、それがすでに私たちの内側にあるということです。切望の美德を
例に取ってみましょう。永続する幸福と真のつながりへの切望は、地球上
のあらゆるものによって共有され、それがために私たちはあらゆる決断と
行動を取ることにになります。この切望は実にさまざまな欲望の中に、外的
状況や所有物——新しい車、もっと優しいパートナー、もっと良い肩書き、
もっと面白い場所——が私たちを幸せにするという信じ込みの中で、たび
たび表されます。しかし実際は、このような目的は一時的なもので、私た
ちを真に幸せにする代わりに、いったん満たされてしまえば新しい欲望が
生じる余地を作ります。この繰り返しの中で、私たちの渴望が完全に満た
されることは決してありません。真の切望は認識されず、うやむやなまま
です。

グルマーイは、切望を次の言葉で定義しています。

これ——その光を内側に見たいと欲すること、内なる体験を欲する
こと、神を見たいと欲すること、大いなる真実を感じることを欲す
ること——が切望です。¹

グルマールは、切望はその最も深遠な形において、私たちの内側にある大いなる真理を知りたいと欲することだと教えています。サンスクリット語で、「切望」という言葉はさまざまに訳すことができます。伝統的には、解放への憧れや切望はムムクシュトワ、「究極の自由であるモークシャへの強い欲求」と呼ばれます。このサンスクリット語の名詞は、「自由になる、解放する、解き放つ」という動詞の語根、ムクからきています。何から解き放たれるのでしょうか。偉大なインドの賢人シュリー・アーディ・シャンカラ・チャーリヤは、『ヴィヴェカ・チューダマニ』からムムクシュトワの定義を使って私たちに有益な助言を与えてくれます。

अहंकारादिदेहान्तान् बन्धानज्ञानकल्पितान् |
स्वस्वरूपावबोधेन मोक्तुमिच्छा मुमुक्षुता || २७ ||

*ahamkāraḍi-dehāntān bandhān ajñāna-kalpitān,
svasvarūpāvabodhena moktum icchā mumukṣutā.*

ムムクシュトワとは、真の本質を知ることによりすべての束縛から自由になりたいとする欲望である。自我から肉体まで広がるこれらの束縛は、無知への執着に起因する。²

シャンカラが「すべての束縛から自由になる」と言うことで意味しているのは、肉体やマインド、あるいは地位や世俗的な追求を私たちは放棄すべきだということではなく、私たちの限定された個人のこれらの側面との、錯覚による同一視から自由になるべきだということです。ですからモークシャは、私たち自身の本質を知らないことからの解放です。その境地の中で、私たちは真の大いなる自己の自由と至福への気づきを十分に取り戻すのです。そして切望は、生来の

自由の体験への旅で私たちが成長し、進歩するのに必要な栄養のようなものです。

偉大な賢人たちは、ひとたび私たちの意識を内側に向けて幸せの源をたどれば、私たちが探しているものは実際には私たちの内側に見つけられると気づくと私たちに伝えているのです。

切望についての確言

私は、私の切望の神髄は神を知りたいと望むことだと認識しています。

© 2020 SYDA Foundation. 著作権所有。

¹ Gurumayi Chidvilasananda, *Kindle My Heart* (South Fallsburg, NY: SYDA Foundation, 1996) p. 204.

² *Viveka Chudamani*, 27; English translation © SYDA Foundation 2016.